２０２６年1月１１日　ガラテヤ１：１－１０
説教題 「キリストの僕」
【今日の説教から】

今年の聖句を「キリスト・イエスにあっては、割礼があってもなくても、問題ではない。尊いのは、愛によって働く信仰だけである」に定め、ガラテヤ書から読み進めようとしております。

キリスト教とは何であって何ではないのか、書簡の冒頭からくっきりと描かれています。

「人々からでもなく、人によってでもなく、イエス・キリストと彼を死人の中からよみがえらせた父なる神とによって立てられた使徒パウロ」。ここに彼の出発点が明確に示されています。

パウロはかつて高名なガマリエルの弟子として名をはせ、キリスト教の迫害に奔走していました。

しかし主イエスキリストを迫害することに向かわせたその学びは間違いであったということ、そのことは彼にとっての大きな衝撃でした。もう二度と間違いのわだちを踏みたくない。彼は徹底的に事の本質を知り極めようとしました。

人が作り出した教えではなくて、人づてに手垢がついた人間本位に変質した教えではなくて、神様ご自身から手渡された源泉を手に入れたい。彼はその戦いを始めたのです。このことは私たちにとっても重要な意味を持ちます。キリスト教的なことを知るのではなく、キリストそのものを知るのです。何がキリストの教えであって何がそうではないのかをもう一度徹底的に調べ上げるのです。私たちはこの年の初めにまずそのことから始めようではありませんか。

皆様おはようございます。何やら聞くところによれば十年に一度の警報級の雪がこの連休に及ぶとのこと、ぜひぜひ皆様お気を付け下さい。今日も朝からにわかに降り出しました。積もるときは深々と静かにいつの間にかあっという間に雪景色になりますね。

先週は地震もありびっくりなさったことと思います。ご無事だったでしょうか。２年前のこの新年の時、そしてそれ以来、能登の方々は大変ご苦労をなさったと思います。

さて私たちは新しい書を開いております。

今年の聖句を「キリスト・イエスにあっては、割礼があってもなくても、問題ではない。尊いのは、愛によって働く信仰だけである」に定め、ガラテヤ書から読み進めようとしております。

キリスト教とは何であって何ではないのか、書簡の冒頭からくっきりと描かれています。

「人々からでもなく、人によってでもなく、イエス・キリストと彼を死人の中からよみがえらせた父なる神とによって立てられた使徒パウロ」。ここに彼の出発点が明確に示されてい

ます。
パウロはかつて高名なガマリエルの弟子として名をはせ、キリスト教の迫害に奔走していました。
しかし主イエスキリストを迫害することに向かわせたその学びは間違いであったということ、そのことは彼にとっての大きな衝撃でした。もう二度と間違いの轍を踏みたくない。彼は徹底的に事の本質を知り極めようとしました。
人が作り出した教えではなくて、人づてに手垢がついた人間本位に変質した教えではなくて、神様ご自身から手渡された源泉を手に入れたい。彼はその戦いを始めたのです。このことは私たちにとっても重要な意味を持ちます。キリスト教的なことを知るのではなく、キリストそのものを知るのです。何がキリストの教えであって何がそうではないのかをもう一度徹底的に調べ上げるのです。私たちはこの年の初めにまずそのことから始めようではありませんか。

1:1 人々からでもなく、人によってでもなく、イエス・キリストと彼を死人の中からよみがえらせた父なる神とによって立てられた使徒パウロ、
1:2 ならびにわたしと共にいる兄弟たち一同から、ガラテヤの諸教会へ。
1:3 わたしたちの父なる神と主イエス・キリストから、恵みと平安とが、あなたがたにあるように。
1:4 キリストは、わたしたちの父なる神の御旨に従い、わたしたちを今の悪の世から救い出そうとして、ご自身をわたしたちの罪のためにささげられたのである。
1:5 栄光が世々限りなく神にあるように、アァメン。

私たちは今年もさらに、キリスト教の本質を探っていきたいと願います。私たちが長らくキリストの父なる神様を聖霊様の助けを頂いて信じている中にあって、この信仰を深めさせていただきたいのです。
父なる神様は贖い主となられた御子キリストを墓の中からよみがえらせなさいました。ここに圧倒的な勝利があります。しるしがあります。勝利の現実があります。私たちが信じるのは勝利の主です。現実の生活の中にあって勝利を与えられる主の事実を信じることによって生ける主を信じています。

私たちの宗教はいわゆるお題目を唱えるばかりの宗教ではなくて現実の結果をもたらす宗教です。主の復活の宗教です。

ルカ 17:20 神の国はいつ来るのかと、パリサイ人が尋ねたので、イエスは答えて言われた、「神の国は、見られるかたちで来るものではない。
17:21 また『見よ、ここにある』『あそこにある』などとも言えない。神の国は、実にあな

たがたのただ中にあるのだ」。

ローマ 14:17 神の国は飲食ではなく、義と、平和と、聖霊における喜びとである。
 14:18 こうしてキリストに仕える者は、神に喜ばれ、かつ、人にも受けいれられるのである。

マタイ 6:33 まず神の国と神の義とを求めなさい。そうすれば、これらのものは、すべて添えて与えられるであろう。
 6:34 だから、あすのことを思いわずらうな。あすのことは、あす自身が思いわずらうであろう。一日の苦労は、その日一日だけで十分である。

この世の中は、現状、悲しいことに神様の御心を繁栄させる流れの中にはありません。
しかしイエス様は私たちをその激流から、罪と滅びの縄目から解き放ち、滅びへの道から私たちを贖いだしてくださいました。ここに救いがあります。この福音によれば、イエス様はその贖いを成してそれでお役終了、私たちも受けて感謝してそれで終了というわけではなくて、このイエス様をじっと見つめて過ごすためにイエス様を待ち望みます。

ヘブル 12:1 こういうわけで、わたしたちは、このような多くの証人に雲のように囲まれているのであるから、いっさいの重荷と、からみつく罪とをかなぐり捨てて、わたしたちの参加すべき競走を、耐え忍んで走りぬこうではないか。
 12:2 信仰の導き手であり、またその完成者であるイエスを仰ぎ見つつ、走ろうではないか。彼は、自分の前におかれている喜びのゆえに、恥をもいとわないで十字架を忍び、神の御座の右に座するに至ったのである。

ヨハネ 14:6 イエスは彼に言われた、「わたしは道であり、真理であり、命である。だれでもわたしによらないでは、父のみもとに行くことはできない。

1ペテロ 2:21 あなたがたは、実に、そうするようにと召されたのである。キリストも、あなたがたのために苦しみを受け、御足の跡を踏み従うようにと、模範を残されたのである。
 2:22 キリストは罪を犯さず、その口には偽りがなかった。
 2:23 ののしられても、ののしりかえさず、苦しめられても、おびやかすことをせず、正しいさばきをするかたに、いっさいをゆだねておられた。

1:6 あなたがたがこんなにも早く、あなたがたをキリストの恵みの内へお招きになったかた

から離れて、違った福音に落ちていくことが、わたしには不思議でならない。
1:7 それは福音というべきものではなく、ただ、ある種の人々があなたがたをかき乱し、キリストの福音を曲げようとしているだけのことである。
1:8 しかし、たといわたしたちであろうと、天からの御使であろうと、わたしたちが宣べ伝えた福音に反することをあなたがたに宣べ伝えるなら、その人はのろわるべきである。
1:9 わたしたちが前に言っておいたように、今わたしは重ねて言う。もしある人が、あなたがたの受けいれた福音に反することを宣べ伝えているなら、その人はのろわるべきである。
1:10 今わたしは、人に喜ばれようとしているのか、それとも、神に喜ばれようとしているのか。あるいは、人の歓心を買おうと努めているのか。もし、今もなお人の歓心を買おうとしているとすれば、わたしはキリストの僕ではあるまい。

私たちはこの教会をどのように思うでしょうか。
違う福音にそれるとは言語道断だ。異端にでも走ってしまったのか。私たちにとってはそんなことはあり得ない、考えられない。聖書を捨てて、イエス様の救いを捨てて私たちにとって他に信じる者がどこにあろうかと。

しかしパウロもまたこう真剣に思っていたのです。神殿はきらびやかで、神の民イスラエルは、出エジプトの民は神の守りの中にあると信じ、自分たちがやっていることに間違いを含んでいるということには一縷の不安もありませんでした。しかしここに問題があるのです。私たちには誘惑があります。どうしても神の道を行くよりも自分の心を喜ばせたいという優先順位があるのです。

「神に喜ばれようとしているのか。あるいは、人の歓心を買おうと努めているのか。」
それが歪んだもう一つの、福音まがいのものを作り出すのです。神の教会が人の教会に成り下がってしまうのです。

人々からでもなく、人によってでもなく、イエス・キリストと彼を死人の中からよみがえらせた父なる神とによって立てられた使徒パウロ…キリストの僕。

このことを深く心に刻みつつ、今年も信仰に歩みに進みたいと願うのです。

◇祈祷；**天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。新しい年、もろも**

ろの災厄から私たちをお守りください。あらゆる過ちから私たちを救い出し、不動の福音の中に私たちを据えてください。寒さの中雪の中、私たちをお守りください。あらゆる苦しめる方々を神様の救いと平安の中にお導き下さい。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。私たちをお用い下さい。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン